

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第54号(2011.08.31)
事務局川西地区自主防災会

東北地方への支援を行う（第3回目）

千年に一度という超巨大大地震におそわれ、5カ月がたち、メディアに取り上げられる回数も減少され少し世間から離されている様子の中、わが川西チームは3回目の支援を行ってきました。

1. 8月1日（月）午前3時に川西を出発

快調に走って午前8時に福井県教賀港に到着。

午前10時出航新日本海フェリー「あざれあ号」総トン数2万トン超。

真白いスマートな船体で、新潟経由秋田港に入港したのは、翌日8月2日の午前5時40分でした。

2. 8月2日（火）午前10時30分 岩手県陸前高田市ボランティアセンター着

早朝に食事をとった後、秋田自動車道から東北自動車道水沢ICを出て、一般道を通って気仙郡住田町にある旧大股小学校跡地にあります災害ボランティア宿泊基地に立ち寄り、宿泊手続きと荷物をおろし、ただちに「陸前高田ボランティアセンター」へと移動。

午前10時30分に到着後、受付処理を行った後、作業指示を受ける。本日の現場は気仙町ケンカ七夕祭りの会場予定地のガレキ撤去。現地に行きますとかなりきれいになっておりましたが、よく見ると、ガラスの破片、瓦の割れ、更に木クズなどもありました。約700㎡位を埼玉県大宮市からの斉藤さんを含め6名にて、午後4時過ぎまで作業を行いました。



3. 8月2日（火）午後6時 作業を終え住田町の宿泊基地へ



午後7時ごろから体育館の一角にあります喫茶コーナーのテーブルに、多くの人達が集まって食事を共にしながらの交流会。皆さん考えも、行動も同じであるがゆえに楽しく大いに盛り上がった夕食になりました。

4. 8月3日（水）午前6時起床 午前8時30分ボランティアセンター 午前9時作業指示 ただちに作業現場へと出発

今日の作業現場は「気仙町字古谷地区」小さな漁港の集落。道路事情も厳しく、大型の機械を入れることが困難なため住宅のガレキ撤去も多く残っているところ。

私たち川西チームと東京八王子から来たボランティア団体との合同作業です。作業分担を行って、川西チームはいちばん海に近いところにある滝沢さん宅並びに周辺のガレキ撤去と集積作業。夏場の作業ということで午後3時に終了。センターへの作業報告は東京八王子チームに任せて我々川西チームは隣町の大船渡市へ被災後の視察をさせていただいた。



5. 8月4日（木）最後のガレキ作業、午前8時30分にセンターにおいて 「作業指示書」を受領、作業用具を準備

東京八王子チームと合流して午前9時に作業現場である「古谷地区」の小さな漁港へ向かった。現場に着くと自治会長さんが待っておられ午前中お葬式のため不在となるがよろしくとのこと。



この地域での作業には自治会長さんをはじめご近所の高台にて被災しなかった皆さんからスイカ、キュウリ、ところてん、アイスクャンディーなどを差し入れていただいた。

瓦礫の集積作業も順調に進み最後には住宅跡のガラス、皿類、ダンボールクズ、更に熊手を使ってきれいに清掃を行い自治会長さんにお礼を申し上げ失礼させていただいた。

6. 8月5日（金）5月にお世話になった避難所「ひかみの園」を訪問

午前5時に起床。荷物を整理し、簡単な朝食をとり、管理事務所にごあいさつと東京八王子チームに別れのあいさつを行った後、私たちは5月にお世話になった避難所「ひかみの園」へ訪問して皆さんを激励申し上げた。

手土産として干しうどん100食、瓦煎餅などを持参した。

園長、事務長さん車が見えなくなるまで手を振って送っていただきました。



7. 8月5日（金）仙台発太平洋フェリー ニューいしかり号に乗船



仙台発12時50分定刻に出港。この2月にデビューしたニューいしかり号はまさに動くホテルの感じ、作業服にて乗船するが気がとがめる位である。しかしつかれた身体には実に心地いいものだ。

8. 3回目の東北支援活動を終えて

4月、5月の支援活動とは、ずいぶん環境が変わっていましたが被災者の皆さんの苦しみはハード的には変化がありますが、精神的ソフト部分は一向に改善されておられません。

私たちの川西チームも多くの支援者の一握りの存在ですが、復興への一歩前進の糧になっておれば遠く1,400km(片道)の道のりを経ての活動も意義あるものでないかと信じています。



今回の活動に要した費用 **242,652 円**の内訳は、次の通りです。

- ・フェリー代 114,400 円
(往路 敦賀～秋田 51,900 円、復路 仙台～名古屋 62,500 円)
- ・車燃料代 18,023 円 (走行距離 1,386km、軽油 14,258リットル)
- ・装備品代 27,855 円 (安全靴・防塵マスク等安全対策 19,950 円、パラソル等暑さ対策 5,123 円、雨具・手袋等 2,782 円)
- ・医療費代 10,524 円 (虫さされ薬等虫よけ対策 10,524 円)
- ・スタッフ食事代 59,500 円 (5人分 8/1 11,212 円、8/2 15,692 円、8/3 9,138 円、8/4 8,326 円、8/5 7,992 円、8/6 7,140 円)
- ・嗜好品代 1,926 円
- ・避難所訪問 10,424 円 (手土産として、うどん 100 食・菓子等)

この度の東北支援活動にボランティア参加されたのは、岩崎 勤氏、中村 芳久氏、中村 勝政氏、松永 恭二氏、岩崎 正朔氏の5名でした。皆さん、本当におつかれ様でした。

以上



かがわ自主ぼうの事務局より、最近の活動を紹介します。

報告 かがわ自主ぼう「役員会」の開催について

8月17日（水）午後4時から高松サンポートにある「e-とぴあ・かがわ」の4階会議室において役員会を開催し、次の議題について議論を行った。

1、会員研修について

12月3日（土）12月4日（日）又は、12月10日（土）12月11日（日）の4日間において、講師予定の大学教授の日程により決定する。

2、「県内自主ぼう」の活動実態や資機材の保有調査について

近い将来発生が確実視されている「南海地震」対策として、県内自主防災会の活動実態と資機材の保有状況調査を、別添調査票により実施することで了となった。

3、「共助の社会づくり支援事業」への応募について

平成23年度から内閣府の助成事業「活動基盤整備」として、かがわ自主ぼうのデータベースを整備して、災害時により迅速に対応できるものを整えたい。

当日の出席者（敬称略）

吉原和夫（高松）川口秀明（高松）大山重晴（高松）
宮本静男（高松）岡重範（高松）山崎利春（高松）
北山定男（坂出）大田寿一（丸亀）岩崎正朔（丸亀）
中嶋喜忠（三豊）高橋正時（三豊）

尚、県防災局危機管理課からは、課長補佐の竹本雅晴氏
がご出席されご挨拶をいただきました。



編集後記

今月の防災減災の輪は、川西地区自主防災会の東北支援活動について、原稿をいただきました。誠にありがとうございました。